

目次



- 生育状況及び南水の開花予想
- まだ間に合う！芽すぐりのポイント
- これから適期！芽たたきのポイント
- 人工受粉のポイント
- 輸入花粉の取扱いについて
- 和梨の開花期の薬剤散布について

1. 生育状況及び南水の開花予想

- 別紙参照
- ナシ類の発芽は、南部 3/27 頃・北部 3/30 頃。平年より 7 日程早い状況。

昨年同様に開花期の凍霜害が心配されるため、例年以上に結実確保に努めて下さい。
また、土壌乾燥も心配されるため保水管理の徹底もお願いいたします。

- 南水開花予想

南部：4月12日頃

北部：4月15日頃

2. まだ間に合う！芽すぐりのポイント

◆ 目的

毎年結実が不安定な南水は、開花前までに芽すぐり（花芽整理）を実施する必要があります。芽すぐりを実施することで、開花時の受粉能力を最大限に高めることができ、結実確保に結びつきます。花芽の数を多く確保しておきたくなるのですが、逆に芽数が多すぎると、開花時に貯蔵養分の競合が発生し、結果として結実不良になる場合が多いのが現状です。芽数を思い切って制限することは勇気のいる作業ですが、花の能力を最大限に高め、結実確保を図るため、整枝剪定と並行して積極的に実施してください。

◆ ポイント

- ① 1短果枝当り1～2芽を残す。結果枝（側枝）の片側15cm間隔（剪定ハサミ1つ分位）で、横向きか斜め上向きの短果枝群を残し、上芽と下芽は基本的に切除する。
- ② ショウガ芽（短果枝群）を整理して貯蔵養分の消耗を防ぐ。通常はハサミで位置の悪い短果枝を中心に切除するが、葉枚数の確保を含めて、手で花芽を欠いてもよい。
- ③ 上向きの短果枝は日焼け果・収穫前落果の原因になるので切除する。
- ④ 基の花芽に切り戻さず、果台を積み上げ、外に開いたように整理する。（花芽の間隔が広くなり、受粉や袋掛けの作業が楽になる）
- ⑤ 横向き、斜め上向き花芽を中心に最終的に着果させたい方向の花芽を残す。多少果台が細く、花芽もやや貧弱でも構いません。
- ⑥ 剪定と並行して実施する。樹1本、枝1本終わったら、芽すぐりを必ず実施する。



芽すぐりの例
斜め横向きまたは斜め上の芽を残すこと。



3. これから適期！芽たたきのポイント

◆ 適期：りん片脱落期から展葉期頃

◆ 方法：指先で蕾を押さえつけるかたたきようにして、葉芽を残して花だけを残す。

↑この作業は花柄が軟らかく折れやすいので摘果よりずっと能率が上がる

◆ 注意点他

- ① 主枝・亜主枝の骨格部先端のえき花芽は着果させないため、芽たたきを実施する。
- ② 新梢を確実に発生させたい箇所は、花芽かき取りではなく芽たたきを行う。
- ③ 花芽及び結実数が制限されるため、凍霜害に遭遇した場合の影響が大きいので、防霜ファンがない園地では極端に行わない。

4. 人工授粉前の環境整備について

人工授粉を適期に実施するところはもちろんですが、その前に受粉環境を予め整備しておくことも重要であり、結実率向上の大きな鍵を握っています。花が咲く前にしっかりと準備をしましょう！

【人工授粉前のチェック事項】

- ① 花芽の整理は実施しましたか？
- ② 5番花以降の余分な花の整理しましたか？
- ③ 土壌は乾燥していませんか？
- ④ 開花7日前までは定期的なかん水を実施していますか？
- ⑤ 人工受粉用花粉は十分湿度にならしてありますか？
- ⑥ 開花予定日はいつですか？

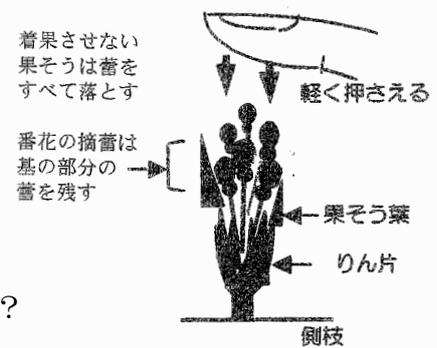


図8-3 芽たたきの方法
花芽の上を軽く押さえ（たたき）花柄を折る。
りん片脱落期から展葉期頃までが適期となる。

5. 人工授粉のポイントについて

◆ ポイント

- ① 南水は、開花から3日目までが受粉能力が高い品種である。開花を確認したらできるだけ早い段階で作業を進める。満開後からは受粉能力（結実率）が低下する。よって、開花始めから満開までのできるだけ早い時期に実施すると結実率が高くなる。
- ② 開花予定日に合わせて、人工受粉用花粉の準備を進める。湿度に十分ならしておかないと発芽率が低くなるので注意する。また、輸入花粉を使用する場合は、超過乾燥状態となっているので、開花予定日の5日前には冷凍庫から出して準備する。
- ③ 気温14℃以上の時間帯になったら受粉作業を始め、受粉後3時間は気温が15℃を下回らないようにする。時間帯は午前10時から、受粉後3時間の気温も考慮して午後3時までが適期である。
- ④ 受粉後に降雨があった場合は、3時間以上経過していれば大丈夫であるが、3時間以内に降雨があった場合は再度やりなおす。
- ⑤ 土壌が乾燥していると開花が揃わず全般に遅れる傾向がある。土壌乾燥状態が顕著な場合は、開花前10日頃に必要があれば灌水を行う。
- ⑥ 花にちょうど収まる程度に調整した梵天を用いて、ねらった番花に確実に受粉する。



図7-3 限定受粉の方法（「幸水」）
花にちょうど収まる程度に調整した梵天を用いて、ねらった番花に確実に受粉する。



6. 南水受粉用【純花粉】の取り扱いについて

～ 南水受粉用【純花粉】の取り扱いについて ～

価格

- 輸入梨用純花粉（10 g 入り） 1 袋 4,740 円（税込み）
- 染色石松子（80 g 入り） 1 袋 1,041 円（税込み）



1. 使用量の目安

- 2～3 袋/10 a
- 花芽整理を行い、上向き・不要な花芽は落とし、限りある花粉を効率的に使用してください。
- 結実確保の為、花粉量はたっぷり使用してください。
- 梵天使用は少なめで、機械使用は多めとなります
- 梵天等で純花粉を使用するとすぐになくなってしまいますので、効率を考えて必ず「自家採取した粗花粉に混ぜる」または、「石松子等の増量剤と混合」して使用してください

2. 石松子との混合割合例

- 純花粉 1 に対して 4～5 倍で使用
- 具体的な使用方法 ↓
純花粉 2 袋（20 g）に対して石松子 1 袋（80 g） → 約 4 倍となります
純花粉 3 袋（30 g）に対して石松子 2 袋（160 g） → 約 5 倍となります

3. 純花粉の使用上の注意点（よくお読みください）

- 品質低下を防ぐため低温化（-20℃以下）・超乾燥状態で貯蔵しています。いわゆる眠っている状態ですので、常温・常湿に慣らして眠りから起こす時間が必要となります。
- 悪天候で予定日に使用できなくても発芽率は約 1 週間位低下しないので使用できます。
- 石松子と混ぜるのは使用直前に行ってください

～使用手順～

- ① JA 各事業所からビニールのチャック袋に入って届きます。
- ② すぐに使用しない場合は、いったん冷凍庫へ保存してください。
- ③ 使用する 5 日前に冷凍庫から出します。
- ④ まず温度に慣らします。チャック袋のまま、温度変化の少ない涼しい場所（直射日光が当たらない場所）へ 1 日置きます。
- ⑤ 次に湿度に慣らします。チャック袋から紙袋を取り出して、引き続き涼しい場所（直射日光が当たらない場所）へ 4 日ほど置きます
- ⑥ 温度・湿度に充分慣れたところで準備完了です。概ね 7 日以内に使い切ってください。

4. 石松子との混ぜ方

- ① 純花粉、石松子、フルイ、金属製のボール、硬いハケを用意する。
 - ② 石松子をフルイへ入れる。（ボールをフルイに乗せて、石松子を入れる）
 - ③ 花粉をフルイへ入れる。
 - ④ ハケで混ぜながら落とす。
 - ⑤ もう一つのボールを使い、充分混ぜるまで 2～3 回繰り返し行う。
- ✿ JA 共同開薬所に花粉混合器を用意しておきますのでご利用ください。

和梨開花期の薬剤散布について

発芽は昨年より7日程早い（平年より7日程早い）状況です。このまま経過すれば、ナシ類の開花始めは南部で12日頃・北部で15日頃と予想されます。つきましては、薬剤散布や摘蕾・摘花等の管理は計画的に進めてください。

年度	平年	H30	R1	R2
開花日	4/25	4/18	4/26	4/15頃

開花期の薬剤散布（南水等が1～2分咲いた頃）

散布時期：4/10～15頃（目安となりますので各園の生育をよく確認してください）

散布薬剤

水	100ℓ
展着剤	20ml
サムコルフロアブル10	20ml（前日、3回）
オルフィンフロアブル	25ml（前日、3回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病、ハマキムシ類、ケムシ類

散布量：10a 当り 350ℓ

～ 注意事項 ～ *必ずお読みください。

- ① 訪花昆虫保護のため使用薬剤を厳守する。
- ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する。
- ③ 不明な点は営農センター担当までお問い合わせください。